



TITLE:

失業者統計概説

AUTHOR(S):

財部, 静治

CITATION:

財部, 静治. 失業者統計概説. 経済論叢 1925, 20(5): 773-802

ISSUE DATE:

1925-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128281>

RIGHT:

京都市大學經濟學會 經濟論叢

第十二卷 第五號

大正十四年五月一日發行

論叢

失業者統計概説

法學博士

財部 靜治

課税と時の元素

法學博士

神戸 正雄

我國近世の土地問題

經濟學博士

本庄榮治郎

御家人の特質

文學博士

三浦 周行

說苑

朝鮮の雜種農業

法學博士

河田 嗣郎

保險の本質に就て

法學士

小島昌太郎

アダム・スミスに於ける勞働價值法則の妥當性に就て

經濟學士

森 耕二郎

マルクスの絶對地代に就て

經濟學士

八木芳之助

雜錄

金利に關する一研究

經濟學士

蜷川 虎三

法令

輸出組合法・重要輸出品工業組合法・染料製造獎勵ニ關スル法律・外國人土地法・預金部預金法・大藏省預金部特別會計法・大藏省預金部特別會計規則・預金部資金運用規則・日本銀行ノ手形割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル法律・教育改善及農村振興基金特別會計法

經濟論叢

第二十卷 第五號

(通算第百拾九號)

大正十四年五月發行

論叢

失業者統計概説

財部 靜治

目次

- 一、序言
 - 甲、總説
 - 二、失業者統計の必要
 - 三、失業者統計の目的
 - 乙、失業者統計の種別
 - 四、都市政廳及労働組合の失業調査
 - 五、人口調査職業調査附帶の失業調査
 - 六、納稅區調査の利便の點の點調査
- 論叢 失業者統計概説

第二十卷 (第五號) 二 七五

七、失業調査に代るべきその他の諸調査

丙、失業調査の特説

八、失業調査の價值及困難

九、三種の査察方法

イ、單純通告法

ロ、改良通告法

ハ、戸別調査法

丁、

一〇、結論

一

大正三年獨逸留學中吾人は京都法學會雜誌(第九卷第八號以下)に、「失業保險に就きて」の一文を寄せ、次いで大正六年三月以後の法學新報誌上に、「勞働紹介雜觀」を載せたことあり、當時職業紹介に就きては兎も角、失業問題の如きは、本邦經濟界とは緣遠きものなりとて、同學の連中にさへ嘲笑されたることあり、然るに焉んぞ知らん、その後旬年だも經過せざる數年來の經濟界にありては、失業を談するに非ずんば、經濟學者に非ずとせらるゝの慨あるに至れり、此變遷に際會して、吾人の如き迂人は同問題に就き、沈黙を守るこそよけれど安んじ來れり、その間最近一

兩年に到り、論壇上の問題は刻々實際問題化するに至り、かくて又今春議會開會中失業救済に關する、貴族院一致の建議を見たりと、傳へらるゝこととなり、別に又新聞紙は今秋簡易國勢調査の實施に際し、一部の大都市所在地にありては、失業調査を行ふの計畫あることを報道せり、實に失業問題は人氣ある時事問題なり、從ひて無難作に考ふる者としては、失業者の統計調査に如何なる困難を、伴ふべきかを省察せず、必要なりとの聲に驅らるゝ儘に、所謂失業調査の實施に即刻賛成するやを知らずと雖も、吾人は尠くとも我邦の行政統計殊に國勢調査事業の、質實なる發達を希望する限り、俄かにその賛否を決し難しと考ふる者なり、第一に現存せる失業統計資料の整頓修正に、先づ注意をそゝがずして、之が臨時的瞬間調査を遂ぐるも、諸機關殊に地方吏員の勞を煩はすこと徒らに多くして、その効果には多くを期待し得ざるべしと考ふるがために然り、第二に右の計畫が、必ずしも、誠意克く社會政策の畫策實施に汲々たる、大都市行政幹部自主自新（大學朱熹集註に此熟字を借る）振起せる結果として、成れるに非ずして、中央官廳の命令に出でんとするの狀あるがために、特に右の考を深からしめずんば非ず。そは兎も角愈々之が實施を、半歳後に看んとする當面の問題に際會し、十を聞きて百を推知するが如き、賢明なる中央官僚に對してはいざ知らず、基本調査の難事業を執掌さるべき、尊敬すべき地方吏員各位並に被調査者たるべき公衆に對しては、失業調査否一般失業者統計に關し、相當の諒解を求め、その調査の缺

點を寡からしめんとするの、準備を積むこと、急務中の急務たるべきことを確信す、從ひて自から揣らす主として獨逸の數文献に就き、讀書せる所に本づき、失業者統計に關する一般知識の扶植に、一助を捧げんとするの微衷に驅られ、倉皇此拙文を草することゝせり、趣意既に然り、從ひて該博は初めより之を期せず、讀者幸ひに諒恕せよ。

二

失業は經濟生活の一現象として、極めて重要なり、又その結果も重大なるを以て、之が統計的查察は疑もなく缺くべからず、即ち失業者統計の結果は、第一に社會諸學上の貴重なる認識を、授くべきを以て重んずべし、詳言すれば之がために諸地方、男女、諸職業に關する、失業の頻繁率を示すべく、又その時間的動搖によりては、季節及景氣の影響を窺はしむべし、(W. H. Beveridgeの名著 *Unemployment* 中には、季節的動搖に關する一章と、多年間の周期的動搖に關する他の一章とを、含むことを注意すべし) 近年獨逸にては同國に於ける失業の時間的動搖と、獨逸爲替相場の動搖とを比較し、その間の一並行關係を發見せり、(一九二二年ゲマアの會議に際し、獨逸國勞働省は獨逸その他の大工業國の、失業問題に關する該格的) 記録 *Ausmass der Arbeitslosigkeit, Lohnausfall, Produktionsausfall, Aufwand für Arbeitslosenunterstützung, Zusammenhang zwischen Arbeitslosigkeit und Stand der Valuta* を提出せることを注意すべし) 又失業者の數は勞働市場の狀況を徵表す、否失業者は實は普通に求職者なり、かくて失業者の數は景氣の尺度、人口

過剰の兆候に供し得べし、失業統計に伴ふ實際的意義は、諸失業政策又は救済の諸施設（救護、保險、救急授業等）^{ノットスタンツアルバイテン}を興すの土臺を、授くることによりて惹起さる、否寧ろ事實に照して論ずるとき

は、近時に至り幾多の獨逸都市行政が、急切に攻究せる失業者救済の公衙組織のために、良好なる失業者統計備はるを以て、その實施につきての必要條件たらしめたりと、説くも誣言に非ず、規則立てる失業救済特に失業保險に伴ふべき、幾多の問題に關し、統計の根據により充分その事情を明かにするに至らざる間は、この困難なる範圍に於て、正當なる方策を發見し得べきに非ず、又満足なる實際的好成績を舉げ得べきに非ず、即ち失業保險の組織につきては、各保險に於けると同様、救済義務ある事件の生起及經過上、個別事件の大量觀察により、明かにさるべき常例を、統計的に深く究明するを要す。その外又失業につきての信頼し得べき統計の必要は、政治的社會的利害の闘争上、隨時世を脅かすべき失業の程度及性質につき、屢々不精確及不當の報告が、種々の黨派により提出流布さるゝの事情により助勢せられたり。^{*}

右の理由に本づき失業者の統計は、近時官廳の失業救済その必要を増せるにつれ、種々に刷新せらるゝ所ありき、現に失業者に關する、本製統計調査を遂ぐるの可能あり、又諸救済施設に對する、救済の要求を本とし、失業の程度を推斷せしめ得べし、されど目下失業の程度及その詳しき性質を、統計にとるの方法は、依然としてその發達不完全たり、改良を要するもの尙甚だ多

* Vgl. Morgenroth, Art. Arbeitslosenstatistik im Handwört. d. Kommunalw. I. 1918 S. 111; Schanz, Art. Arbeitslosigkeit im Wörterbuch d. Volksw. 3. Aufl. I. S. 195; Žižek, Grundriss der Statistik. 2. Aufl. S. 510 (尙同書譯竹田武男氏應用統計學 641-648 頁併せ參照)

し。

三

失業者統計の目的は、失業全般の事實に就きて、詳細なる報告を授け、依りてその認識を本とし、失業及其の窮狀に對する方策實施のため、有用にして信賴すべき基本を收めんとするにあり、その方策が失業豫防に關すると、(勞働市場、勞働紹介、授^{アルバイツベシヤツツング}職、勞働分配等を、一層適切に規律することにより)現存失業を抑制し、その有害なる結果を緩和するの方策(失業者救護、失業保險、救急授業等)に關するとは之を問はず。

理論上又は實際上の理由に訴へ、失業救濟の目的上、最も必要視すべき統計事實は、大體に次の如し、即ち第一に長年に亘るべき失業繼續觀察を遂げ、依りて景氣の動搖特に經濟恐慌により、失業に及ぼす影響を測定するの目的を達せしむべし、又失業者(失收入者)の數は重んずべく、次に失業者てふ社會的特別群につき、その民誌的及經濟的要素による構成を明かにすべし、(男女別、年齡別、配偶關係別、所帶に於ける地位別、職業別及轉業、全失收入、一部失收入に關する報告)又失業の繼續期間及原因、失業の諸期間に挿まる、就職期、失業者の移住、失業の相對的程度(全人口又は營利能力ある人口等との比較上)その他のことを示すことゝすべし(以上失業者の個別人身統計)失業の性質を示すべき凡て是等の特徴につき、次にその時間的移動を問ひ、

又場所的觀點により、出来るだけ詳細に統計により究むるの要あり。又人の一團としての失業者統計には、失業者救護のために支出されたる金錢（失業者救護による國民の負擔）一般に失業者救済のための諸施設の統計、及その財政の統計に關する叙説も亦伴はしむべし。^{o*}

四

以上説けるが如き失業者統計の目的を達するため、諸種の試みは行はれたるも、その何れも尙充分に満足すべき結果を、擧げたりとすべきことなし、又その何れも無條件なる優秀を、要求するを得ず、その調査の結果は方法異なるため、又視取りの時點を異にするため、又土臺に定めたる失業の意義を異にするため、全く不同なり。^{o**}

最も多く採用せられ、又現今尙失業につきての吾人の知識に關する、最も重要な報告を授くべき統計査察方便は、之を失業問題に關する特別（本製）統計調査即ち所謂失業調査 *Spezielle gezielte* *chfalls primärstatistische Arbeitslosenzählungen*（失業者の調査とする方、名實共に適切なるべきも、今吾國の簡便を期して、失業調査と呼ぶ）に求むべし、失業が重視すべき程度に達せるため、又救済施設を設くるの計畫あるために、特に注目せらるべき一時點に於て之を實施し得べし、かゝる調査は最近數十年の經過中、多數の都市に於て實施され、屢々又短かき又は永き期間を挿みて繰返されたり、その大部分は都市行政それ自體調査に當れるも、私的團體特に勞働組合によりても、亦失業調査行は

* Vgl. Morgenroth, a. a. O. ; Žižek, a. a. O.

** Vgl. Die Statistik in Deutschland, II. S. 778.

れしこと珍しとせず。^{*}

失業に關する最初の公調査は、一八八〇年代にその端を發す、即ち同年代に先づ瑞士の諸都市はかゝる調査を初めたり、獨逸にありては最初の失業調査は、一八九〇年代に個々の市行政により實施されしも、當時尙缺點に富みたり、次いで今世紀の初め以來始めて信すべき調査は、多數の都市に於て相次いで行はれたり、即ち第一に Stuttgart は一九〇二年二月一九日に調査し、Dresden は同年一〇月二二日に、Magdeburg は同年一二月七日に調査したり、獨逸諸都市統計年報 Das Statistische Jahrbuch Deutscher Städte がその報告に參可せる諸都市 (一般的には人口五萬以上の諸都市) につき示せる所によるに、一九〇三乃至一二年間に總て一一九回の失業調査行はれ、而も一九〇三乃至四年 (四月より三月に至る) には六回、一九〇四乃至五年には五回、一九〇五乃至六年には三回、一九〇六乃至七年には二回、一九〇七乃至八年には四回なりしもの、一九〇八乃至九年には恐慌に伴へる大失業に押され、四三回も行はれたり、次いで一九〇九乃至一〇年に調査は復た二〇回に減じ、一九一〇乃至一一年には二二回、一九一一乃至一二年には一五回を示せり、個々の都市はかゝる調査を、一年内に數回行ひ (屢々夏調査及冬調査) 或は少くとも年々一回繰返して行へり、特に Köln, Charlottenburg, Nürnberg, Dresden, Freiburg i. Br., Mülheim a. Rh. は失業調査の範圍に於て、特に銳意して従事せる諸都市たりき。^{**}

* Vgl. Morgenroth, a. a. O. SS. 111, 112.; Žižek, a. a. O. S. 511.

** Vgl. Morgenroth, a. a. O. S. 112.

諸都市の公衙調査と並び行はれたる、労働組合の失業調査は、一八八〇年に遡りて之を尋ね得べく、又幾多の獨逸諸都市に行亘れり、されど中立の役所（その外又之をその都市の統計所に求むべきや當然なり）が何等關與することなく、労働組合のみがかゝる調査を行へる所にては、その結果の信頼價值多くは比較的に渺かりき、従ひて敵方より信ぜらるゝこと全く輕微なりき、特に労働組合の同業聯合會 *Fachverbände* が實施せる夥しき調査中、失業保險を興すの基礎に供せんとせるものは兎も角、煽動の效果を伴はしめんとするがためにせるものは、懷疑を以てその計數を迎ふべきなり、兎に角労働組合による失業調査の缺點は、事實上著しく大なるがために、そは公衙の失業調査にさへも、屢々尠からざる程度に於て伴ふべき、誤謬源に比するも尙一層大なり、一九〇九年二月一六日の伯林及一九の郊外町村に於ける都市調査は約二萬の失業者を示し、一九〇八年一月一七日伯林及四七の郊外町村に於ける、他の都市調査は約四萬の失業者を示せるも、一九〇九年伯林及四四の郊外町村につき、労働組合の調査として行はれたるものは、一〇六千人の失業者を報告して、特に著名となれり、是等の計數によるに殆んど一致せる時點に、伯林に於て遂げられたる都市の調査と、労働組合の調査との間に大差を示すは、後の調査に於ける信頼價值の程度を、明かに徴證するものなり、一九一乃至一二年に大多數獨逸都市に行亘り、全獨逸土木労働者聯合會 *Der Allgemeine Deutsche Bauarbeiterverband* がその組合員（約三〇萬人）につき、土木勞

働者の組合に於ける、失業救護策開設の土臺を築くために、行へる失業調査は特に注目の値あり。その外又都市によりては公益團體にして、市の調査に類せる失業調査を行へるものあり、假令ば Frankfurt a. M. にては、私立濟生會本部救急委員 Notstandsausschuss der Zentrale für private Fürsorge は失業調査を行へり。^{*}

五

都市の調査以外に、都市の境域を越へ、國土全部に及ばされたる失業調査は、起れること甚だ稀なり、國土全部に亘るかゝる調査は、又その殆んど全部大多數の都市失業調査と同様なる、單獨調査として行はれず、全國人口調査、職業調査に附帶せられたり、數例のみを舉げんか、佛蘭西は一八九六年、一九〇一年、一九〇六年、及一九一一年の人口及職業調査に、失業調査を附帶せしめ、埃地利は一九〇〇年の人口調査、一九二〇年一月三十一日の人口及職業調査、伊太利は一九〇一年の人口調査、丁抹も一九〇一年の人口調査に之を伴はしめたり、獨逸帝國にては一八九五年六月一四日の全獨職業及經營調査、並に同年十二月二日の人口調査に際し、失業を明かにするため、宏汎なる試みを伴はしめたり、かくて一八九五年は恰も同年に當りし、二大調査に失業調査を伴はしむることにより、一長所を授けたり、即ち右の仕方により夏季並に冬季につき、獨逸帝國に於ける失業確かめらるゝを得、かくて大差を示すこと著名なる、夏季と冬季との失業

* Vgl. Morgenroth, a. a. O. S. 112.; Schanz, a. a. O. S. 198.; Žižek, a. a. O. S. 511.

間に於ける、貴重の比較觀を遂げしむるの長所を授けたり、而して右帝國調査の結果は、F. Zahnにより方法論上よりするも亦貴重なる、傑出の入手は加へられたり。(Die berufliche und soziale Gliederung des deutschen Volkes, Statistik des Deutschen Reiches, Bd. III.) 人口實査又は職業調査に附帶せる、失業者の本製統計調査方法は、特殊の長所を有す、即ち全人口にその尋問を及ぼすことによる、悉皆觀察の長所あるも、他面には著しき缺點あり、比較的に長年月を距てゝのみ調査せられ、而も失業研究のためには、虞らくは全く適せざる時點につきての調査なること、人口實査又は職業調査に於ける、尋問事項を一層加重して、之を煩はすべきこと、結果の發表が餘りに遅るべきこと等は然り、特に職業調査なき人口實査に伴へる失業調査は、就業者に對する失業者の比を、窺はしめざるの大缺點を有す、故に職業調査を伴はざる失業者の視取りは有益ならず、我邦に於て本年施行さるべき簡易國勢調査は、職業をその調査事項より除くの豫想を以て、その計畫を進めつゝありき、一部の都市所在地に於て新たに失業を調査するがために、夫等の地方に於ては右の豫定を裏切り、職業をも調査することゝするや、將た失業者のみを調査することゝし、その結果の有益たらざるを忍ぶことゝするか、當局の賢明なる判斷に俟つべき所、吾人は多大の興味を以て事の成行を傍觀せんとする者なり、その外人口又は職業の大調査に伴へる失業調査は、共に常に瞬間事相を示すに過ぎざるの短所を有す、失業は大動搖を示すべきものなるを以て、かゝる瞬

間調査にては足れりとせず、特に地方自治體は救濟策の必要程度を測定し得べきがために、割合に多數に起るべき失業を、引續き知悉するの必要を有す。^{*}

獨逸一八九五年の二調査にありては、本業として様式に記入されたる勞働者^{アルバイトナー}(家内工業勞働者及自宅勞働者を含む)は、三問即ち現在勞働(職)^{メアレンク}に就けるか、然らずとせば幾何日數來勞働(職)を離るか、勞働(職)に離るゝは一時的勞働無能力のためかとの間に、答ふべきものとし、而して固有の本業なき家婦、帝國支分國及地方自治體金庫より、年金を受くる役人及軍人、並にその寡婦、廢疾年金受有者、傷害年金受有者中永續的全營利無能力のために與へらるゝ者、その他の永續的營利無能力者につきては、何等の記入をなすべからずとせり、賃銀を得勞働に當れる者は、その賃儲狀態持續する間は、凡て勞働及職にある者と視るべく、特に疾病は一時的勞働無能力の狀態視すべしとせり、右設問の答には誤謬なしとせず、その調査の缺點は輕しとせざりき、一例のみを舉げんか、その調査上意味せるが如き失業概念は、屢々正當に了解されざりき、即ち勞働者に限り又職に離れ居る際に限り、右の間に答ふべく、失業視さるべき筈なりしに、此部類に屬せざる者にして、記入せる者尠からざりき、假令從來雇主たり又は獨立たりしに、現在勞働を求むる者、從ひて初めて勞働者たらんと欲せし者は然り、記入せる他の人々中には、一職業準備中なる者あり、又獨立せんとし又少女の如き結婚せんとせるがために、その職業を止めたる者もあり

* Vgl. Morgenroth, a. a. O. S. 112; Žižek, a. a. O. S. 511; Schanz, a. a. O. S. 197; Die Statistik in Deutschland, a. a. O.

き、兵役服役期中を失業期視すべしと、信じたる者も尠からざりき、來住し來れる多數人にとりては、來住も亦地位の喪失を意味し、後日に至り眞實の失業を生じたりしならんも、調査上今や之を算入し得べきに非りき、又記入せる者の中には、雇傭關係全く解消されたるに非ず、賜暇又は休暇中にあり、從ひて現在職に當らざるも、失業とはなし得ざるに拘はらず、自から失業視せる者もありき、規則正しき勞働者たらざる人々、假令は隨時家業の手助けに當れる娘、義務學齡中の子供は、勞働者として數ふべきかに就き、困難を生じたり、一層多く不確實を生みしは、勞働を欲せざる人々の群、詳言すれば乞食、嫌勞者、浮浪人、妾、賣淫婦、男娼 Louis 等の群なりき、嚴密に議すれば是等は全く勞働者たらざるも、之を限定するは甚だ困難なり。^{o*}

獨逸にては一八九五年來失業者の、新らしき全國調査は最早試みられず、一九〇七年の職業調査にありては、Bremen 之を併せ調査せり、一九一〇年には普國統計局は、失業に關する問を挿むことを、地方廳に對してさへも除かしむることゝしたり。^{o**}此史實たる本邦統計の當局者として、大に玩味されんことを切望せずんば非るなり。

六

固有の失業調査に對し、失業に關する他の調査視すべきものは、第一に多くの國にて課税の目的上、年々又は二年毎に實施せらるべき、納税人員調査に際して行はれ、固有の失業調査に

* Vgl. Schanz, a. a. O. S. 195 ; ibid., Neue Beiträge zur Frage der Arbeitslosenversicherung, '97 SS. 165, 166.

** Vgl. Schanz, a. a. O. S. 196.

可なり比肩せらるべき、失業者の調査なり、多くの支分國稅法假令は普國所得稅法は、官廳の要求あらば、勞働者に支拂はれたる賃銀を報告するの義務を、雇主に負はしむ、從ひて雇主の身分及住所に關する、一尋問事項を設くべきや明かなり、之がために失業者を明かにし得べきを以て、次いで本人への再尋問により、必要なる個別報告を收め、材料を確實に整はしむ、此方法は一九〇二年初めて Wiedfeldt により Dresden に行はれたり、Halle a. S. 及 Rixdorf にては、一九〇八年結果を急ぎ、後日査定を略せるより、材料の信賴價值を大に殺したり、又この方法は錯遜王國統計にありては、失業率の年々の査定に利用さるゝ所なり。(特に一九一〇乃至一九一三年中)*

七

失業に關する知見として、一層重要なる材料たり、加之部分的には失業者救済のために、最良の基本を授くるものに、失業者統計の他の諸支流あり。此點につき第一位に考察すべきは、勞働市場、勞働紹介所、その他の勞働媒介所の統計、廣義によりては又經濟的景氣統計中に宿さるゝ、貴重の統計的説示なり、是等の統計は直接に失業を示すことなくして、寧ろ勞働に對する需用、勞働の供給、就職、授職程度その他同様なることを、計數に照すべきも、その時間的動搖の上に於て、失業の増減を認識せしむべし、就中勞働紹介統計が隨次現存求職者(地位競争者)數を示す程度内に於ては、失業に關する特殊の一知見之により授けらる、唯多くの失業者は同時に、數

* Vgl. Morgenroth, a. a. O. S. 112. ; Schanz, O. S. 197.

勞働紹介所に申込みこともあり、又一切の求職者は必ずしも失業たらず、假令ば單に他の地位を望むに過ぎざる者、特に奴婢中に尠からず、之がために失業者の數を増大せしむべきと共に、他の一面失業者の全部が、勞働紹介所の門を潜るゝすべきことなし、特に不況の際には唯さへ、缺員の儘なる傭ひ口も持合せなき、勞働紹介所にその足を運ばざる失業者鮮からず、而も亦比較研究の特殊一標準は、依然として之により授けらる、加之勞働紹介所特に又市立^{アルバースツェン}勞働局に於て營まるゝ統計は、有用失業統計編製の目的上、尙著しく刷新せらるゝを得べし、即ちカード式の仕組を用ゐ、之を助けとして勞働局に申出でたる、各勞働者に就き繼續的に錄取すること、假令ば München の市立勞働局に於て、近年初められたるが如くするときは、長年の觀察を續くることにより、失業の繼續期間及移動につき、甚だ有用なる材料を得せしむべきや確かなり、又獨逸の勞働紹介統計は近年に至り、試験^{スチヒダグ}調査日の調査に際し、求職者中の幾何が失業たるか、幾何が全失收入者として、公金より救護を受けるかを示すことにより、失業統計の意味上修補せられたり、この改正により失業者及全失收入者の、諸業に於ける分配を、明かにし得べきことゝなれり。^{*}吾人は本邦に於て失業調査計畫せられたるを機會とし、本邦職業紹介の統計も亦統計局の手により、相當なる整理刷新加へられ、その結果が同局定期刊行書、特に統計年鑑に紹介せらるゝに至らんことを、切望せずんば非ず。

^{*} Vgl. Morgenroth, a. a. O. S. 123 ; Schanz, a. a. O. S. 198 ; Žižek, a. a. O. S. 512.

失業統計の他の重要な作製所として問はるべきは、疾病金庫の報告なり、勞働市場認識の兆候的方便にして、又可なり迅速にその消長を反映せしむべきものとして、勞働紹介の統計と共に重んずべし、即ち獨逸の例によるに、一般的には雇主は公設疾病金庫 *Orts- und Gemeindekranken-Kassen* に對し、保險義務ある各人につき、就職の初めより遅くも三日内に届出で、職を罷めたる時もその後遅くも三日内に、届出づるの要あり、從ひて保險義務ある者の移動により、幾何の人新たに賃傭状態につき、幾何人がその地位を失へるかを察知し得べし、死亡等による減員はその數を案すべく、又營利能力なき病者は、現在職に就かざるを以て、義務保險組合員の數より引去るを可とす、又任意の被保險者は、通常最早一地位を占むることなき者として、計數に加へざることを以て、又任意共濟組合の組合員は、屢々加増保險たり、從ひて重複調査の結果を生ずべきを以て、之を不問に付するを可とす。夫れ失業を繼續的に確實に察取するの問題は、可なり困難とすべき所なるも、獨逸にては疾病保險により授けらるゝ材料を、更に刷新する所あらば、その目的に協はしむるの捷徑たらんとせらる、(*Rapport 2 der Conference internationale du chômage, Paris 1910* に於ける *Silbergleit* の提議參照) 死亡による擾亂は地方的には、身分登記所への届出を借りて之を除き得べく、轉地は住民届出所への届出により、之を確かめ得べし、それは現に *Magdeburg, Aachen, Düsseldorf* に行はるゝ所なり。^{*}

* Vgl. Schanz, a. a. O. SS. 197, 198.

その外尙救貧統計その他個々の他の統計は、失業の特殊特徴認識の可能を授く、貧困事例の一部は、實に失業により惹起さるればなり。

次に尙失業に關し遙かに確實又貴重なる報告は、個々の勞働組合聯合會にて失業となれる者、及その團體により救護されたる失業者に關し、勞働組合が報告する所に之を求むべし、何れにしてもその團體により、救護を受ける者は、悉く確實に之を知悉すべきのみならず、その外又通常その救護を受けざる失業組合員をも知る、勞働組合發達し、失業保險の範圍に於ける、之が行動を増すと共に、右の統計は又引續き改善さるゝ所あるべし、失業統計のその他の諸報告に比し、之が一大長所とすべき點は、その統計が失業せる組合員の數につきてのみならず、失業の繼續期間及移動、並に失業者に對し支出せる救護額につきても、報告を授くるにあり、今假りに統計を根據として、失業者諸救護策の費用を算出し、又は各職業に於ける失業の危險を、精密に測定すべきこととせんか、勞働組合の統計は、(餘りに少な過ぎたる計數を、土臺とせるものたらざる限り)失業調査に比し一層良好なる材料を授く、そのことたる特に假令は München に於けるが如く、勞働組合に總勞働者中の大部分を、羅致せる諸都市にありては然り、されど又一層大なる地域に亘り、諸聯合會の報告を總括することによりても、右の統計は極めて貴重なる材料を授け得べし、從ひて獨逸につきては一九〇三年七月以來、毎月帝國統計(初めは統計局勞働統計部により、今は勞働紹介局 Reichsanstalt)

für Arbeitsvermittlung による)は労働組合同業聯合會に於ける、失業につきてのかゝる總括を、労働公報 Reichsarbeitsblatt 及労働市場公報 Arbeitsmarktanzeiger 並に獨逸統計四季報に發表し、(その以前より存在したる英、佛及白の統計を模範とす)その摘要は獨逸國統計年鑑にも示さる、あらゆる職業中労働組合の組織あるものなる限り、右の公報につき失業の移動を尋ね得べし、唯忘るべからざるは、團體組織を有する労働者が、少數を占め、失業に曝さるゝこと尠き、良労働者を代表すること、休業組の配置、労働時間短縮により、惹起されたる仕事減少、從ひて一部失業をその統計に問はざることなり。^{*}

失業を測るの標準として最も重要なるは、報告せる聯合會所屬の組合員總數に對する、失業者の百分比を、定期に繰返さるべき試験調査日、假令ば獨逸統計にては毎月の最終週末日に於ける、狀況により示せるものにあり、(工業の種類及聯合會によりては、男女別に分ちて示すものあり)且又特定の期間(假令ば四季別)につき、聯合組合員每百人につき、失業幾何件數に當るかを算定す、之にありてはその期間經過中、同一人が數回失業せる際にも、數回として之を數ふ、されど失業の程度は失業者の數、及失業件數により決せらるゝのみならず、失業者の失職期間によりても左右さる、この事情あるため、英國職工組合の救護施設を土臺とせる、左記計數につき特に興味を引く、即ち同國組合員總數に比し、救護又は資産分與を受けたる失業者は次の如し。

* Vgl. Morgenroth. a. a. O. S. 113 ; Schanz. a. a. O. S. 198.

一八七〇——七九年	三・八三%
一八八〇——八九年	五・五八%
一八九〇——九九年	四・四四%
一九〇〇——〇九年	五・二九%

右の計數には全く比較適性なし、蓋し職工組合の救護期間は、前後一樣ならざりしと共に、時を経るに従ひ、經營制限は解雇の代りに、大に重きをなすに至りしを以てなり、かくて失業の程度につきその特色を最もよく現はさんどせば、組合員たる日數又は可能勞働日數に對する、失業日數の比によることゝすべし、獨逸の統計は別に又失業の平均繼續期間を、日數によりて報告し、その外失業せる聯合組合員の幾割が、聯合會より救護を受けしかをも示し、勞働組合の金錢的給付の統計をも示す、近年に至り同業聯合會は、男女短時間勞働者クルツァルバタイアーの數をも報告することゝなり、かくて全失業の外、短時間勞働も亦統計に表章せらるゝことゝなれり。*

職員組合聯合會に於ける失職は、四季毎に察取せらるゝのみなり、その統計は毎季に於ける失業の件數、及各月末日に於ける失職者が、失職者救護請求資格ある人員百につき、幾何に當るかを算定す、被救護者の失職日數及救護日數、支出されたる救護額の報告も亦その中に含まる。***

勞働組合經營の失業救濟施設による、經驗に於けると同様、都市その他の救濟施設又は失業保險所の報告中にも、亦極めて貴重なる統計材料は、當然時を経るに従ひて積まるべし、現に國營

* Vgl. Zizek, a. a. O. SS. 511, 512 ; Schanz, a. a. O. S. 198.

** Zizek, a. a. O. S. 512.

義務失業保險を有する諸國にては、失業者數に關する材料は、無理やりに成立す、失業者に對しては現に一定の給付を行へばなり、獨逸國は尙未だ失業保險を有せざるも、世界戰爭の末期に新設せる、失收入者救濟制^{エルゼエスローゼンエスエルゲ}あり、失收入者救護金を與ふ、(之を失收入者保險に變らしむるは、望まじきことにて又その計畫あり) かくて失收入者統計は此施設に本づきて成立す、その統計は本救護金受取人、加増救護金受取人(救護請求資格ある家族)とを分つ、その當初全失收入者のみを問ひしも、一九二二年一〇月一日以來救護されたる失一部收入者をも、亦その計數中に入るゝことゝせり、男女別に分たれ、毎月一日には人口毎千につき、本救護金受取人及加増救護金受取人幾人に當るかを、規則正しく算定す、長期換言すれば六ヶ月以上に亘り、失收入者救護を受ける者の特別統計も作製せらる、支給されたる救護金額、即ち右失收入者救護に關する經費も亦察取叙說せらる、かくて失收入者統計は、今や獨逸にありては失業の最も該括的な統計を代表す、唯その統計は複製統計たる性質上、救護金請求に關する規定によりて左右せらる、現に全國の材料を掲ぐる勞働公報は、その計數が失業者中の一小部分を含むのみにして、多數の短時間勞働者及一時的に諸救急施設に紹介せられたる、失業者を含まざることを、何時も注意す、獨逸都市月報^{モナーツフヘテ}は各都市に關する、失收入者統計材料を掲ぐ。^{*}

以上述べし所により失業者の特殊救濟施設につきては説けり、その外統計は假令ば特に個別の

* Vgl. Žižek, a. a. O. S. 512.

都市により、失業緩和のために興さるゝ救急授業を明かにすべし（通常都市統計による）散在せる地方的救急授業につきては、今や失收入者授産救済制 *Produktive Erwerbslosenfürsorge* 興され、多数の失收入者は諸救急策を施さるゝために、之により收容せらる。（労働公報に繼續して報告さる）その外又假令は物品給與所及労働者殖民地（失收入の渡り労働者收容のための）の材料も問はるべし、之につきては假令は普國統計年鑑を参照すべし。^{o*}

八

屢々失業統計の大根源視せらるゝ、失業調査の價值に關しては、之を誇張すべきに非ず、即ち失業調査は如何なる形式により、又如何なる方面より實施せらるゝを問はず、之に非常なる困難を伴ふを以て、ために調査の結果はその信頼價值を損はるべく、そはその調査の遂行に、用意及愼慮を注ぐこと、輕微なるに従ひて愈々甚しかるべし、その外又失業調査によれば、諸重要點假令は失業者の數、その男女別、年齢別、配偶關係別、職業別等につきては、良知見を授け得べく、又監督充分に行届かば、失業の原因をも亦大體に適切に示し得べきも、失業の相對的程度、失業の持續期間及その移動につきては、略言すれば失業救済の組織を立つるの目的上、極めて重要な三點につきては、不充充分なる知見を授け得るに過ぎず、特に特定の日日に於ける失業の、瞬間事相丈けを反映せしむべき、あらゆる調査の缺點は、失業調査に伴ふべし、従ひて失業調査によ

* Vgl. Žižek, a. a. O. SS. 512, 513.

り一大利益を收めんと欲せば、年々又は一年の経過中にても季節を異にして數回、之を繰返すの要あり、されどそは大經費を伴ふのみならず、國民に重大の煩累を及ぼすべき所なり、加之頻繁に繰返すこと、しても、サ程多くは利せざるべし、蓋し勞働市場の狀況に於ける動搖は、屢々極めて迅速に起るを以て、失業調査の結果は、調査日の選擇如何により、著しく左右さるべく、又季節、天候その他の諸事情により、失業者の増減を呈すべきを以てなり。*

その外又考察すべきは、一調査により失業者數を、完全に洩れなく視取るの目的は、失業調査を單獨調査として行はず、全人口を問ふべき一調査、全國人口實査又は職業調査に、之を附帶せしむる場合に限り、達せらるべきことなり、單獨調査によりては經驗上、完全具足の保證を授けること殆んど全くなし。されど又他の一面に於ては、數ふべき失業者をその他の人口に對し、適切に限定せんとするに當り、大困難に遭遇するや、獨逸一八九五年の調査例につき前にも一言せるが如し、一般に多くの失業調査にありては、固有の失業者視し得ざる者、夥しくその調査に數へ込まるとの懸念を、除き去ることを得ず、即ちその調査には獨立の小工業經營者、全く勞働を求めざる者、嫌勞者、病人その他の勞働無能力者を、調査上併せ視取ることゝなる、されば一面單獨の失業調査にありては、査察不完全のため低きに過ぎたる數を、收むる虞あるも、他の一面に於ては一切の失業調査上、不適切なる分子を取込むことにより、高きに過ぎた數を收むる

* Vgl. Morgenroth, a. a. O. SS. 113, 114.

の虞あり。^{○*}

困難は失業の概念的定義に關聯して惹起さるべく、統計として切實にその定義に適合し得るが如く、定むるは容易ならず、假りに都市行政々策上普通に採用さるゝが如き意義により、勞働の意志及能力を有するも、諸事情の不況又は自己の不熟練のために、自力によるも營業的又は公益的勞働紹介によるも、適切なる勞働の機會を發見する能はず、又は勞働を全く發見し得ざる人々を指すとするも、之を實査する際には、失業者とすべき者と然らざる者との取捨選擇上、尠からざる疑義を生ずべし、假令ば失業調査を固有勞働者に限定し、かくて獨立の小工業經營者、職員、學生等を除外することは、屢々行はるゝ所なるも、尙多くの誤謬源は之に伴ふべし、蓋し一面勞働者と他面獨立の小商人又は職員との限界は、明確に劃定されざるべきを以てなり、又失業の概念を狭く限るや、廣く定むるやにより、即ちその概念を嚴密に全く過失なき失業と定むるや、勞働意志の存在及勞働能力の程度等を、明快に限定するや、窮屈に流れざるが如く定むるやにより、その調査上甚だ相違せる結果を收め得べし、特に女子の失業を、右の點に關して察取するは甚だ困難なり、又短時日に限らるゝ一時的勞働無能力者、傷害又は癱疾年金の受取人、その他の諸理由により調査の範圍内に入らざる、無職者の取扱につきては、獨逸に於ける調査の先例上、多くの疑點及困難を授くとせらるゝ、その外又重複調査に陥り易きの弊あり。^{○**}兎も角勞働能

* Vgl. Morgenroth, a. a. O. S. 114.

** Vgl. Morgenroth, a. a. O. S. 114; Die Statistik in Deutschland, II. S. 838.

力の有無及程度は、割合に確かめ易しとするも、實査の瞬間に勞働の意志あるや否やにつきては、事柄それ自體被調査者の主觀に屬し、之を確かむべき客觀的標準あることなし、客觀的悉皆大量觀察の目的上、失業調査を嫌ふべき根源は茲にあり、今秋の調査に先だち我行政統計當局者は、恰ねく諸外國調査の先例を參酌し、又本邦諸都市の實狀に鑑み、調査すべき失業者の限定、並に之が調査員取扱心得の決定につきては、綿密なる考慮を拂はれんことを切望す、此點につき遺算あらんか、徒らに失業調査てふ仁政的美名を掲げつゝ、失業調査の實を失遺するの結果に陥ゐらん。

九

一 失業調査により要求され得べき、信頼價値の程度は、その調査に利用されたる査察方法の種類、及その調査員の選擇、調査の組織及材料整理に關し、注がれたる注意の程度に本づきて定まる、由來單獨失業調査の實施上、大體異なる三方法を採用せり、從ひて此調査につき異なる三形式を分つべし、一九〇八乃至九年の冬季中、特別失業調査は約五〇の獨逸地方自治體により行はれ、その間異なる右の三方法は採用されたり、右自治體の三分の二は、第三の方法によりしが、他の約三分の一により採用されたる二方法は、失業者の任意通告を本とせり。^{*}

イ、最も古くして最も不完全なる形式は、數とり函を使用すべき、單純通告法 Das einfache

* Vgl. Morgenroth, a. a. O. S. 114.; Schanz, a. a. O. S. 197.

Meldesystem od. Zahlmuncsystem なり、之にありては、公告、貼札等により、人口中の失業者に對し、役所より無償に配付さるべき、様式に然るべく記入し、記入済の様式は、調査の目的を以て市の各部に、備付けたる函内に投入すべきことを求むることゝす、此方法にありては假令は Stuttgart にて行はれたるが如く、調査日の夕方に至り、投入されたる申告票の數を、現存失業者の數として示すを例とす、この方法は多くは大なる調査洩れを生ずべく、全く輕微なる價值を有するに過ぎざるや明かなり。

ロ、失業調査の第二形式は、改良通告法を採る、之にありても前方法同様、失業者に通告を求むるも、幾多の市區に於ける特定の通告所に、自から出頭して通告せしむることゝするにあり、かく通常は市行政の代表者及勞働組合その他の團體の代表者を以て、組成さるべき通告所の仕組あるは、前方法に比し一大改良を意味し、之により偽りの申告を訂正するの可能あり、且又失業者につきての聴取上、失業の原因及その他の誘導現象につきてさへも、甚だ信頼すべき査定を遂げ得べきも、他の點につきては尙多くの不備を伴ふ、即ち前方法に於けると同様、多くの失業者はその調査につき、何事をも知らず、通告を報せず、その事業を助成するの性向を、示さざることは一層頻繁なり、又通告所を訪ぬることを羞かしとする者も尠からず、後者は特に女子につき屢々見る所なり、又通告所が市の代表者及勞働組合の代表者により組成せらるゝとせんか、勞働組

合に屬せざる勞働者、又は商業使用人等は通告所行を差控ゆること屢々なり。^{o*}

ハ、前記二形式には缺點を伴ふため、一層良好なる形式、即ち全市に分遣さるべき特別調査員による、戸別訪問失業調査法 *Hausstündige Zählung* の採用に遷り行くことゝなれり、而もそは或は書込むべき様式を、失業者に渡し置き、後に再び回収することゝするか、或は失業者による口頭の申告及その辯明に本づき、調査員自身をして記入せしむることゝす、後の方法は中にも良き仕方なり、通告法にありては凡ては、失業者の好意により左右さるべきも、此方法にありては凡ては、團體所屬の勞働者中より採用せし、調査員の好意により決せらる、かゝる調査員は事情に通じ、又失業者は彼等に對しては、最も快よく自白すべければなり、されどこの調査方法にありても、亦幾多の事情により調査洩れを生ぜしむべし、採用せる調査員の熱心、良心及教養は、此點につき特に大影響を及ぼすべし、調査實施のため市の吏員を採用せることは多きも、他の場合には勞働組合員を、調査員として引入れたり、後の場合にはその調査員中に、調べ落としに幾分か興味を引くべき、人々る包容することゝなるべきも、甚だ多數の人を採用し易く、従ひて極めて狭き調査區を分ち得べきことを、意識するの要あるに對し、吏員による實査にありては、構成すべき調査區多くは廣大なるがために、查察實施のために便利ならず、何れにしても戸別訪問失業調査の形式は、比較的最良の方法たり、他の方法に比し大規模なる仕組により、大多數の調査

* Vgl. Morgenroth, a. a. O. SS. 114, 115 ; Schanz, a. a. O. S. 197.

員を要するに拘はらず、初めより不完全の刻印を付せらるべき、通告法に比し遙かに良好なる結果を期待せしむ。唯此方法によるも如何に不満足の結果を生むべきかにつき、一例だけ挙ぐることにせんか、Charlottenburg にては一九〇五年中、二月二六日に行へる調査は八四一人、七月二三日の調査にては二七八人、十一月二五日の調査にては一三三人の失業者を示せり、常に失業の増加を見るべき、一月に右の如くその數を減せるは、勞働組合が市會議員選舉のためにその力を殺がれしより、申告書の配付及回收に怠慢なりし、一事により釋明さるべき所なり、その方法は婦人につきては一層適せず、又極めて大なる都市にては、數千人の調査員を必要とす、かくて假令ば一九〇九年伯林に於て、社會民主黨所屬の勞働組合が、此方法により行へる一調査にありては、四五千人を使用せりと自稱せり、要するに Most が適切に注意を促せる如く、單獨失業調査の結果は甚だしく疑はし。^{*}

右の方法により勞働組合所屬の勞働者を、起用する際にも、多くは市行政の統計所をして、組成せしむべき中立公衡を煩はし、調査の實施を監視せしめ、又監校のための尋問事項を附せる、詳細の調査様式を用ゐ、失業者につきてのその他詳細なる監校に當りつゝ、之をして正當なる調査洩れに關し、充分なる用意を積ましむることゝせんか、良結果を擧ぐるを得ん、かゝる注意をそゝぐ限り、勞働組合所屬の勞働者を、調査員として採用しつゝ、戸別訪問失業調査法の助

* Vgl. Morgenroth, a. a. O. S. 115 ; Schanz, a. a. O. S. 197.

けにより、満足なる結果を挙げ得べきことは、假令ば一九二二年二月二日 München 及其の周圍町村に行はれたる、失業調査により實證せらる。右の調査にありては、その當時六一萬人を數へたる市を、三二八一調査區に分ち、實查實行のために、四一百人の調査員及補充調査員使役されたり、構成されたる調査區の多數にありては、各調査員の受持てる家數軒に過ぎず、一切の失業者を完全に視取るの保證行届きたり、他面監校のための尋問事項を附せし、詳細の尋問用紙と、統計所に於ける調査材料の立入りたる検査とは、調査員により引渡されたる材料中、調査の意義に訴へ、失業視すべからざる労働者を、取除くことを可能ならしめたり、かくて査察に際し統計所に送致されたる、記入済失業調査用紙九二七〇通中、一六七二通は検査に際し斥けらるゝの要ありき、從ひて査察の意義によれる失業者の、實際現存數は七五九八人に低下せり。^{*}

尙特に興味あるは Magdeburg 市より發表されし、一九〇八年十一月末の同市に於ける失業及労働時間短縮に關する調査報告なり、同市労働組合聯合の助力を得て、行はれし右戸別調査は、一部分は統計にして一部分は特別委員調査たり、特に失業者につき重要な數細別を設けしことは興味あり、即ち(イ)労働無能力の失業者、(ロ)市外に於て労働に就くことゝなれるも、その住所を Magdeburg に保持するもの、(ハ)以前に Magdeburg に住所を有せるも、次いで遠隔の労働地に引移り、今や又失業者として入り來れる者の區別を設けたり、調査の重要補充とすべきもの

* Vgl. Morgenroth, a. a. O. S. 115.

に、前記報告の第二編あり、そは諸工業經營に就き、勞働制限及勞働時間短縮に關する巡問の結果を含む、從ひて一面失業者に就きて察取し、その失業の原因につき失業者にも亦尋問せりと雖も、他面多數の大經營に對する尋問により、恐慌の際彼等が採用せる、諸方策の良瞥見を授く、その調査は尋問せる經營を、若干の職業大別に分ち、又尋常時に使役せらるゝ勞働者數により、大小級別を分ち、その當時の使役勞働者數と前年との比較、及使役勞働者の最高數とを問へり、又大小諸級工業に於ける勞働者解雇の範圍、及平日勞働時間短縮の程度を問へり。^{*}

一〇

以上主として獨逸事情により、諸方面の失業者統計材料につき説き來れり、之を我邦につきて考ふるに、以上各種統計資料の根源中、本邦に備はらざるものは尠からず、特に勞働組合頗る微力にして、失業者統計作製の目的上、諸方面の充分なる助力を之に仰ぎ兼ねるの狀あり、此意味により政府の失業調査計畫は或は機宜を得たりとするを得ん、殊に國際關係及國內政治上の理由を、併せ考ふるときは、その感を深からしめずんば非ず、されど純然たる統計調査の觀點より論せんか、俄かにその計畫に賛意を表するを得ず、試みに獨人 *Bescher* の評論を聞け、曰く「從來利用されたる諸方法は、不充分なりとの認識、諸方面の調査による結果の不完全、何れの方法により得られたる材料にも、一部は故意一部は偶然の誤謬及不精確を伴へるの事情は、會々失業者救

* Vgl. Die Statistik in Deutschland, II. S. 840.

濟が諸方面より、諸都市の社會的職分中に數へられ、又その要求を進め市營失業保險創設に及ばすの状態あるを以て、愈々重大事態視さるべき所なり、……方法論の意味により確言すべき所によるに、諸失業調査には今日尙、學問上輕微なる價值を付與し得るに過ぎず、その調査は察取せんと希望せしものを、察取する能はず、收め得べき材料は、確かに何れかの都市政策を、行ふの基本に利用され得べきも、大仕掛の都市政策を畫策し、一定の場合に失業保險を創設するための基本には、決して供し得べきに非ず^{*}と、夫れ然り、五年前に「一人の嘘は萬人を殺す」と言ふ迄に宣傳し、確實第一を期しつゝ、實施したる國勢調査の例を襲ひ、而も亦恰もその確實を期するがために、調査事項を尠からしめたる今秋の簡易國勢調査に際し、之を併せ調査せんとするが如きは、決して賢明の措置と稱するを得ず、而も亦方針既に決定し、相當の準備積まれたる今日に於ては、その調査の缺點を成る可く尠からしむるの主意により、準備を積むの外なきや前にも説きしが如し、幸にしてその準備充分に積まれ、本論の所説を裏切るが如き、好成績舉げられなば、そは帝國のために慶福なり、「客夏(一九二三年)維也納に遊びて、白耳義人ヴァーレー氏の知遇を得、同氏の盡力預りて力ある、萬國失業防止會 Association pour la lutte contre le chômage の本邦支部創設に斡旋せんことを諮議せられ、心私かに本邦の實況否之に關する自家見聞の淺きを耻づとは、十餘年の論文中に説きし所、吾人は此耻を再び重ぬるの虞なきに至らんことを、切望せずんば非ず。(完)

* Vgl. Die Statistik in Deutschland, II. 839.